

ラ・ナシオン紙（ジブチ）による安倍総理書面インタビュー
（8月27日付，1面・3面）

（問）ジブチに駐留している自衛隊が、地域で果たしている役割如何。

（総理）2009年以来、日本は自衛隊の部隊をソマリア沖・アデン湾に派遣し、海賊問題への対処に当たってきました。

海洋国家である日本は、海洋を、自由で平和な、法の支配が貫徹される世界・人類の公共財（グローバル・コモンズ）として保ち続けることが重要であり、こうした取組は国際社会全体の平和と繁栄を確保していく上で不可欠と考えています。ソマリア沖・アデン湾の海賊問題は、このグローバル・コモンズを脅かす、国際社会全体にとっての深刻な課題です。

この観点から、ジブチは、日本にとって戦略的に重要なパートナーです。2011年には、ジブチにおいて、日本独自の活動拠点の運用を開始しており、自衛隊の海賊対処行動を支える要衝となっています。ジブチ政府及び国民の温かい支援に改めて感謝の意を表します。また、ジブチの安定は、「アフリカの角」地域を含む東アフリカ全体の安定にとっても死活的に重要です。

日本の自衛隊を始めとする国際社会の取組の結果、近年、ソマリア沖・アデン湾における海賊事案発生件数は着実に減少しています。これは、ジブチに駐留している自衛隊が海賊行為を抑制し、ソマリア沖・アデン湾での船舶航行の安全に大きく寄与していることの証左です。

日本としては、ジブチからの協力を得つつ、今後とも自衛隊による海賊対処行動を着実に実施し、重要な海上交通路の安全確保を図り、地域と国際社会の平和と繁栄に貢献していく考えです。

（問）ジブチで日本が実施している援助プロジェクトのうち、どのプロジェクトが最も重要か。

（総理）海上交通路の要衝に位置するジブチの安定と持続可能な発展は、日本を含む国際社会にとっても、大変重要な課題です。そうした考えの下、日本は、ジブチに対し、生活基盤整備や沿岸警備隊の能力向上のための支援を積極的に行っています。

具体的には、最近では、廃棄物処理機材や消防・救急車の供与に関する無償資金協力を決定した他、保健・医療サービス等の質の向上を図るよう技術協力を行っています。

また、海上保安分野では、本年5月、ジブチ沿岸警備隊の能力強化の協力を開始しており、近く、日本の海上保安官等を短期専門家として派遣し、ジブチ側の海上保安に関する実務的能力の向上に貢献していく考えです。

本年6月に行われた第五回アフリカ開発会議（TICADV）では、今後5年間で、ODA約140億ドルを含む、最大約320億ドルの官民の取組でアフリカ支援を行うことを打ち出し、海賊対策の支援等の具体的施策も発表しました。こうした方針を踏まえ、日本の技術や知見を活かした協力を通じ、引き続き、ジブチの安定と持続可能な発展を後押ししていきます。